

メール de EDI “e-エクスプレス” (Ver8.5)

メールハンドリング自動化ソフト “Mail Connect”(Ver4.5)

セットアップマニュアル



- (1) インストール、セットアップは Admin 権限で行ってください。
- (2) インストール時”プログラム互換性アシスタント”のダイアログが出ることがあります。
必ず”このプログラムは正しくインストールされました”をクリックしてください。
詳細は 1. 10 インストール時の注意事項をご覧ください。

目 次

1. セットアップの手順	
1. 1 EDI用メールボックスの作成.....	2
1. 2 メールアドレス帳保守.....	3
1. 3 基本設定	
メールサーバーの設定.....	5
バックアップドライブ、保存期限の設定.....	6
接続.....	6
相手担当者へのメール.....	6
障害時メール発信.....	6
1. 4 受信環境の設定	
受信メールアドレス設定.....	7
受信許可メールアドレス設定.....	10
業務AP自動起動.....	11
1. 5 送信環境の設定	
送り方3つの方法.....	13
送信メールアドレス設定	
送信フォルダー毎に相手先を固定するとき.....	14
1つの送信フォルダーから全相手先に送信するとき.....	16
マニュアルで自由に相手先に送る（自由送信）とき.....	18
送信メッセージの編集.....	18
1. 6 管理者権限設定.....	19
1. 7 複数業務の稼動.....	20
1. 8 暗号鍵の管理	
必要性.....	21
暗号化の方式.....	21
e-エクスプレスが採用している方式.....	21
共通鍵暗号方式と公開鍵暗号方式を併用した電子認証の仕組み...22	
鍵の導入方法.....	23
1. 9 環境のエクスポート／インポート.....	26
1. 10 インストール時の注意事項.....	27

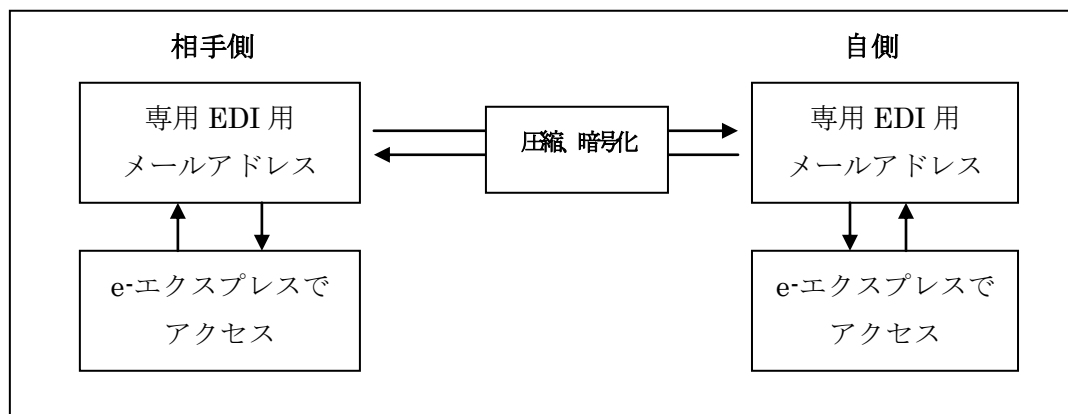
1. セットアップの手順

以下の手順のしたがってセットアップしてください。

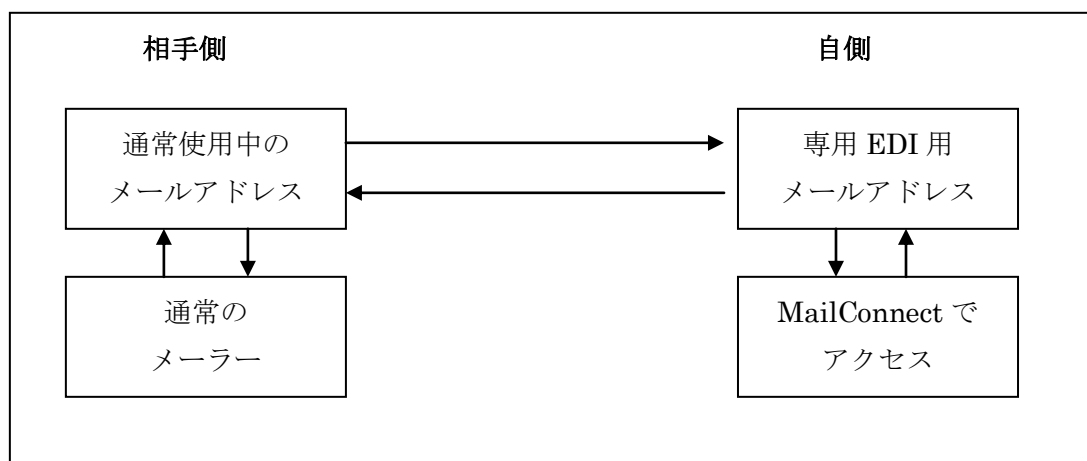
1. 1 EDI 用メールボックスの作成

- ・ 情報交換のための EDI 用メールボックスを専用に作成してください。
このアドレスは、情報交換専用のメールアドレスです。
- ・ パスワードは公開せず、絶対に通常のメーラー(OutlookExpress 等)でアクセスしないでください。
- ・ 通常ご使用のメールアドレスを EDI 用メールアドレスとして指定しないでください。
通常のメールが消去されることがあります。

<e-エクスプレスの場合>



<MailConnect の場合>

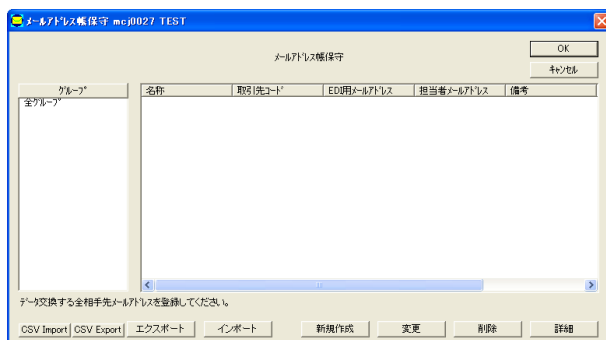


1. 2 メールアドレス帳保守

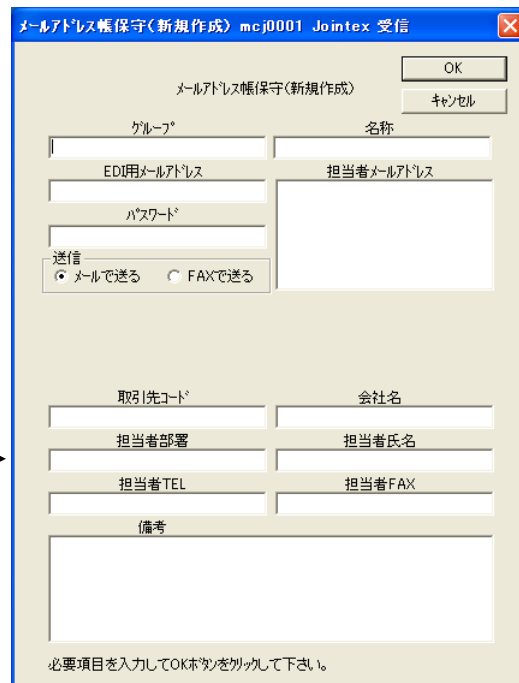
「アドレス帳」ボタンをクリックする。

データ交換する全相手先のメールアドレスを登録してください。

項目	説明	例	入力必須
グループ	任意の文字	取引先、営業所 等	Y
名称	任意の文字	取引先名称 等	Y
EDI用メールアドレス	半角	xyz@abc.co.jp	N
担当者メールアドレス	半角 改行で複数登録できます。	abc@xyz.co.jp	N
パスワード	任意の文字、文書が暗号化されます。		N
送信	メールで送る、FAXで送るをラジオボタンで選択		Y
取引先コード、会社名 担当者部署、担当者氏名 担当者TEL、担当者FAX 備考	任意の文字		N



新規作成 →



Internet EDI Pro “e-Express”

- (注1) EDI用メールアドレス、取引先コードはどちらかは入力必須です。
 EDI用メールアドレス (e-Express) はデータの重複は許されません。
 EDI用メールアドレス (MailConnect) は同一アドレス入力が可能です。
 (注) 同一EDI用メールアドレスが別の担当者アドレスを設定したとき、問題がでることがありますのでご注意ください。(例) 相手担当者に返信メールを自動で送るとき等
 取引先コードはデータの重複は許されません。
 (注2) 担当者メールアドレスは入力任意です。
 (注3) アドレス帳は CSV 形式でエクスポート、インポートできます。
 ユーティリティ—>アドレス帳 CSV エクスポート
 ユーティリティ—>アドレス帳 CSV インポート

アドレス帳 CSV 形式フォーマット

項目名	説明	入力必須	備考
グループ	任意の文字	Y	
名称	任意の文字	Y	
EDI用メールアドレス	半角	*	
担当者メールアドレス	半角 ; 区切りで複数登録できます。	N	セミコロンで区切ります。
取引先コード	任意の文字 (アンダーバー以外)	*	
会社名	任意の文字	N	
担当者部署	任意の文字	N	
担当者氏名	任意の文字	N	
担当者 TEL	半角	N	03-2222-3333 or 0322223333 どちらも OK です。
担当者 FAX	半角	N	03-2222-3333 or 0322223333 どちらも OK です。
備考	任意の文字	N	
パスワード	任意の文字	N	
送信	“M” or “F”	N	M : Mail F : FAX 未入力時 M とみなします。

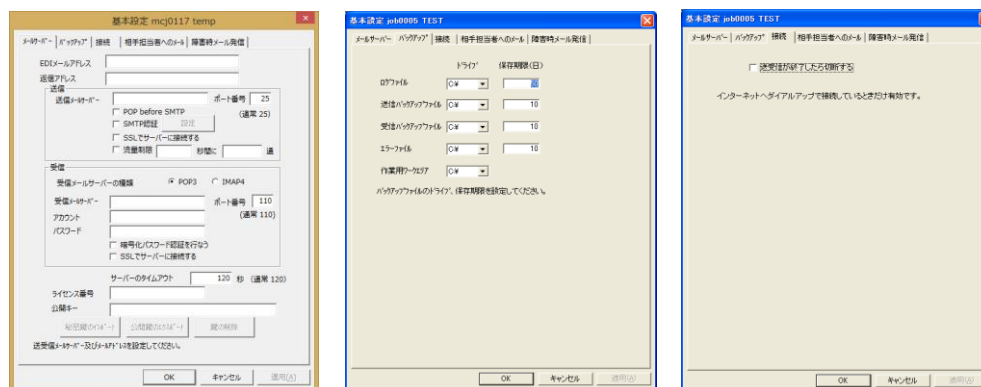
- * EDI用メールアドレス、取引先コードのどちらかは入力必須です。
 * アドレス帳エクスポート、インポートのコマンドラインインターフェースはオペレーションマニュアルをご覧ください。(他のプログラムからの起動方法)
 * インポートを行うとアドレス帳が初期化されます。ご注意ください。
 e-エクスプレスの場合公開鍵も初期化されます。

- (注4) アドレス帳は配布することができます。
 (アドレス帳全体の配布)
 ユーティリティ—>アドレス帳エクスポート
 ユーティリティ—>アドレス帳インポート
 (個別アドレスの配布)
 アドレス帳—>アドレスを選択—>エクスポート
 アドレス帳—>インポート

- (注5) 公開鍵、秘密鍵の設定は 1. 8 暗号鍵の管理をごらんください。
 (e-エクスプレスのみ)

1. 3 基本設定

環境設定→基本設定



＜メールサーバー＞ 送信用、受信用メールサーバーを設定してください。

項目	説明	例
EDI メールアドレス	送受信メールアドレス 名前<メールアドレス>形式も指定できます。	xxx@abc.co.jp 名前<xxx@abc.co.jp>
返信アドレス	返信アドレス (通常不要)	
送信メールサーバー	送信メールサーバーを指定	sv01.abc.co.jp
ポート番号	送信メールサーバーのポート番号	通常 25
Pop before SMTP	送信メールサーバが Pop before SMTP 認証を行なう時チェックする。	
SMTP 認証	送信メールサーバが SMTP 認証を行な う時チェックする。 DIGEST-MD5, CRAM-MD5, LOGIN, P LAIN に対応。 特別なアカウント、パスワードを使用す るとき“設定”ボタンで設定する。	
SSL でサーバーに 接続する (送信)	SSL 接続のときチェックする。	STARTTLS に対応 PortNo 587
流量制限	送出メール制限を行います。	
受信メールサーバーの種類	POP3, IMAP4 どちらかをチェック	通常 POP3
受信メールサーバー	受信メールサーバーを指定	sv01.abc.co.jp
ポート番号	受信メールサーバーのポート番号	通常 POP3:110 IMAP4:143
アカウント	アカウント名	
パスワード	サーバーに設定されているパスワード。 大文字、小文字が区別されますのでご注 意ください。	
暗号化パスワード 認証をおこなう	受信メールサーバーが暗号化認証を行 なうときチェックする。	POP3: APOP 認証 IMAP4: CRAM-MD5, LOGIN に対応
SSL でサーバーに 接続する (受信)	SSL 接続のときチェックする。	POP3: PortNo 995
サーバーの タイムアウト	サーバーのタイムアウト値 (秒)	デフォルト 120
ライセンス番号 公開キー (e-Expressのみ)	秘密鍵が登録されると表示されます。 ライセンスメディアの ¥Internet EDI PRO¥yyyyyyyykey を選択す る。(yyyyyyyy はライセンス番号)	

<バックアップ>

バックアップファイルのドライブ、保存期限を設定してください。

ファイル	デフォルト		説明
	ドライブ	保存期限	
ログファイル	C:¥	50 日	送受信記録を保管する
送信バックアップファイル	C:¥	10 日	送信データのバックアップ
受信バックアップファイル	C:¥	10 日	受信データのバックアップ
エラーファイル	C:¥	10 日	着信チェックで NG になったファイルの保存場所
作業用ワークエリア	C:¥		圧縮、暗号化等で使用する一時的ワークファイル

バックアップファイルを収容するディスクドライブは十分余裕をとった容量を確保しておいてください。保存期限が過ぎると自動的に消去されます。

<接続>

インターネットへダイアルアップで接続しているとき、送受信終了後必ず切断したいときチェックします。

ダイアルアップ接続でないとき（LAN 経由等）チェックしないでください。

<相手担当者へのメール>

相手担当者へのメールを別のサーバーから発信したい時だけ設定します。

通常は設定の必要がありません。設定方法はメールサーバータブの設定と同じです。

<メールサーバー>の項をご参照ください。

<障害時メール発信>

障害時障害報告メールを発信したい時、その発信環境を設定してください。

送信先アドレスは複数設定できます。“改行“で区切ってください。

障害報告メールは自動運転（タイマー設定、常駐型）時のみ発信されます。

設定方法はメールサーバータブの設定と同じです。<メールサーバー>の項をご参照ください。

1. 4 受信環境の設定

<受信メールアドレス設定>

環境設定→受信環境→受信フォルダー設定

着信データを格納するフォルダーをあらかじめ作成しておいてください。

条件により振分けをおこないそれぞれのフォルダーに格納します。

振分け条件を設定する

受信フォルダーを設定する

このフォルダーにデータが入ったときのみ起動するユーザ APがあれば指定する。

振分け条件を設定します。なにも設定しないと、全件対象となります。

アドレス帳ダイアログで設定する。大文字小文字の区別はありません。

アドレス帳ダイアログで設定する。大文字小文字の区別はありません。

ファイル名はワイルドカードが使えます。
?は任意の文字を表します。
*は任意の文字列を表します。
(例)
TEST?.C TEST1.C TEST2.C が対象になり TEST11.C は対象外です。
TEST*.C TEST1.C TEST2.C TEST11.C すべてが対象になります。
?* は組合せて使えます。
大文字小文字の区別はありません。

件名を指定します。
大文字小文字の区別はありません。
部分一致条件を指定するもできます。

- ・ メールアドレス、取引先コード、ファイル名、件名はANDで結ばれます。
- ・ メールアドレス、取引先コード、ファイル名、件名の中の各条件はORで結ばれます。
- ・ 条件を削除する時は Delete Key を押してください。

項 目	説 明
振分け処理	<p>複数のフォルダーの条件に一致した時のデータの扱 を指定します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 条件に一致した最初のフォルダーに格納する。 2. 条件に一致したすべてのフォルダーに格納する。
振分け条件	<p><メールアドレス> 追加ボタン→アドレス帳ダイアログで選択します。 大文字、小文字の区別がありません。</p> <p><取引先コード> 追加ボタン→アドレス帳ダイアログで選択します。 大文字、小文字の区別がありません。</p> <p><ファイル名> 追加ボタンで設定します。 ファイル名はワイルドカードが使えます。 ?は任意の文字を表します。(全角文字も1文字です) *は任意の文字列を表します。 (例) TEST?.C TEST1.C TEST2.C が対象になり TEST11.C は対象外です。 TEST*.C TEST1.C TEST2.C TEST11.C すべてが 対象になります。 ?* は組合せて使えます。 大文字小文字の区別はありません。</p> <p><件名> 追加ボタンで設定します。 大文字、小文字の区別がありません。 部分一致条件を指定することもできます。</p> <p><複数の条件を設定した時> メールアドレス、取引先コード、ファイル名、件名は “AND”条件で結ばれます。 メールアドレス、取引先コード、ファイル名、件名の中の各条件は “OR”条件で結ばれます。</p> <p><無条件の指定> 条件を何も指定しない時(条件欄が空白)無条件とみなされます。</p>

Internet EDI Pro “e-Express”

項目	説明		入力必須
受信フォルダー	着言データを格納するフォルダー名を指定します。 振分け条件が指定されている時条件に合致したデータがこのフォルダーに格納されます。	ファイルダイアログで指定します。 (参照ボタン)	N
格納モード	データ格納時のモードを設定します。 同一ファイル名(別格②)…で保存： 同一ファイル名がすでに受信フォルダーに存在する時ファイル名(②)(④)…で格納されます。 同一ファイル名は後ろに追加(アペンド)： 同一ファイル名がすでに受信フォルダーに存在する時既存ファイルの後ろに追加します。 データはテキスト形式の時のみ有効です。 テキスト形式以外のデータが着言したとき処理が正しく行われません。ご注意ください。 同一ファイル名を上書き： 同一ファイル名がすでに受信フォルダーに存在する時既存データを上書きされます。 添付ファイルをフォルダでラップ： 受信フォルダにサブフォルダが作成されメールのヘッダー、件名、本文、eコマンドの送り状、添付ファイルが一つのフォルダの中に格納されます。添付ファイルの数がサブフォルダが作成されます。添付ファイルのないメールではフォルダが作成されません。 着言メールをフォルダでラップ： 受信フォルダにサブフォルダが作成されメールのヘッダー、件名、本文、eコマンドの送り状、添付ファイルが一つのフォルダの中に格納されます。一つのメールで一つのファイルが作成されます。添付ファイルがなくても作成されます。複数の添付ファイルがあるときそのまま複数格納されますが、同一名が存在するとき別格②)…で格納されます。 (注1)eコマンドの送り状はeコマンドで送信時作成し、送信静電を受則に届ける静電ファイルです。一般メールとの授受の場合存在しません。 (注2)作成されるフォルダ名、ファイル名 受信フォルダ名/yyyyymmdd_hhmmss_rmm¥ 年月日 時分秒 追番 eコマンドの送り状：nse_internet_edi_pro_contents.xml メールヘッダー：nse_internet_edi_pro_header.txt 件名：nse_internet_edi_pro_subject.txt 本文：nse_internet_edi_pro_body.txt	コンボボックスで設定します。	Y
着言確認メール送付	N：送信しません。 Y：固定電文をアドレス帳担当者アドレスで送信します。 CC：着言メールを担当者アドレスに転送します。 R：固定電文を発言人へ送信します。 R+CC：固定電文を発言人へ送り、着言メールを担当者アドレスに転送します。	CC、R、R+CCはメールコネクタの機能です。 固定電文をユーザー独自に編集したい時、固定メッセージの編集ボタンで編集できます。	N
備考	自由に使えます。	任意の文字が使用できます。	N
ユーザーAP起動	このフォルダーにデータが入ったときのみ起動するユーザーAPがあれば指定する。 詳細は「業務AP自動起動」の項をごらんください。		N

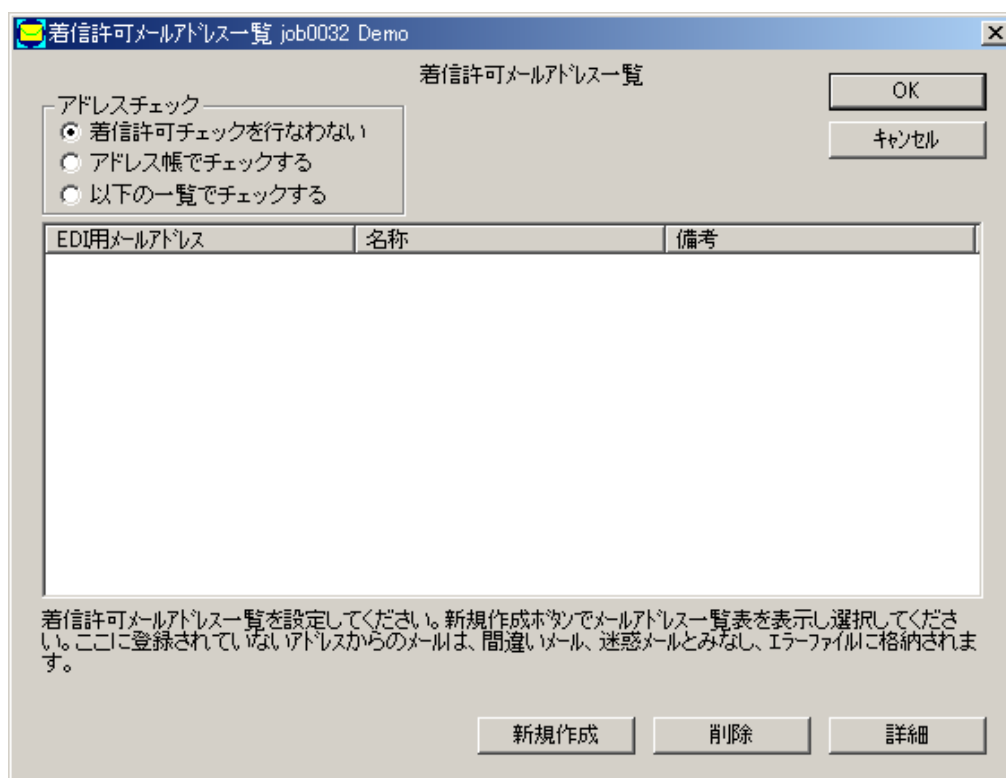
<受信許可メールアドレス設定>

環境設定→受信環境→受信許可メールアドレス一覧

間違いメール、いたずらメール等防止するため相手先メールアドレスを登録制にするためのアドレス一覧表を設定します。「新規作成ボタン」でアドレス帳から設定します。

このアドレス一覧以外からの着信データは、間違いとみなします。

e-エクスプレスで相互に公開キーを交換し暗号化メールでデータ交換をするとき、相互認証を行なうためこの機能は必要がありません。このとき「着信許可チェックを行なわない」をオンにしておいてください。(デフォルト値です)



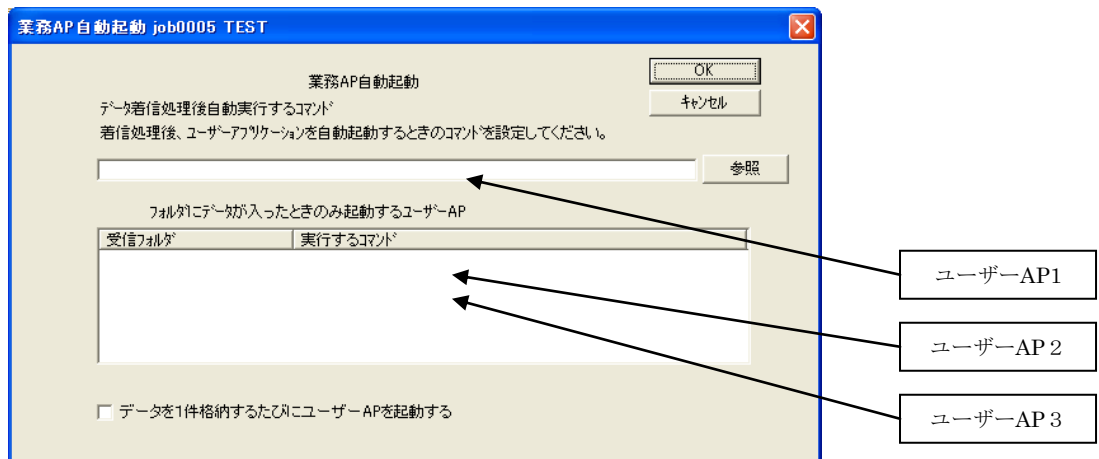
<業務AP自動起動>

環境設定→受信環境→業務AP自動起動

データ受信後業務アプリケーションプログラムを自動起動するときここに処理コマンドを登録します。

(例)

C:¥User_AP¥Program1.exe



起動するプログラムにパラメータを渡す時 “|” で区切ってパラメータを記述します。

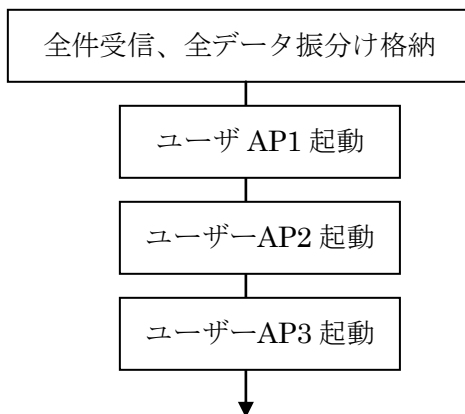
| 以下がパラメータとみなされます。

| の前後にスペースがあってもかまいません。

(例)

C:¥User_AP¥Program1.exe | AAAAA BBBB

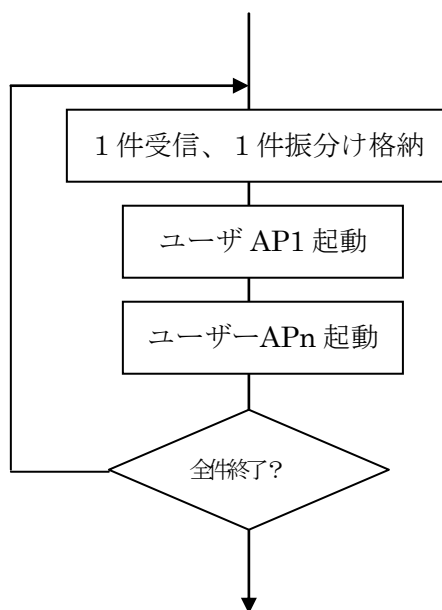
処理のタイミング (データを1件格納するたびにユーザーAPを起動するをチェックしないとき)



<処理の詳細>

- ・ 全データ受信、全データ振分け格納後ユーザーAPを起動します。
- ・ ユーザーAPは以下の順序で起動されます。
上記画面参照
(1) ユーザーAP1
(2) ユーザーAP2
(3) ユーザーAP3
- ・ 其々のユーザーAPは処理終了後次のAPが起動されます。
(非同期起動は行いません)
- ・ 同一ユーザーAP (コマンド及びパラメータ) は、1回しか起動されません。

処理のタイミング (データを1件格納するたびにユーザーAPを起動するをチェックしたとき)



<処理の詳細>

- ・ 1件データ受信、振分け格納後該当ユーザーAPを起動します。
- ・ ユーザーAPは以下の順序で起動されます。
上記画面参照
(1) ユーザーAP1
(2) ユーザーAPn (該当AP)
- ・ ユーザーAPは処理終了後次の処理に入ります。
(非同期起動は行いません)

全データの受信完了まで上記のステップを繰り返します。

<解説>

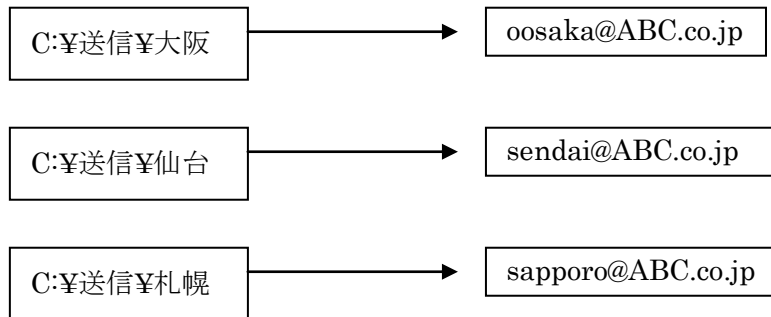
e-エクスプレス、MailConnectは受信データを発信時刻順に取り出します。通常の伝票処理では発信順処理が必須のアプリケーションのがあります。たとえば取消し伝票処理等です。このようなとき、このチェックボックスをチェックしておいてください。発信順に処理がなされます。

1. 5 送信環境の設定

<送り方3つの方法>

送り方には、以下の3つの方法があります。

(1) 送信フォルダー毎に相手先を固定する方法



送信フォルダーにある全ファイルを指定された相手先におくります。
送り先の数だけフォルダー数が必要です。

(2) 1つの送信フォルダーから全相手先に送信する方法

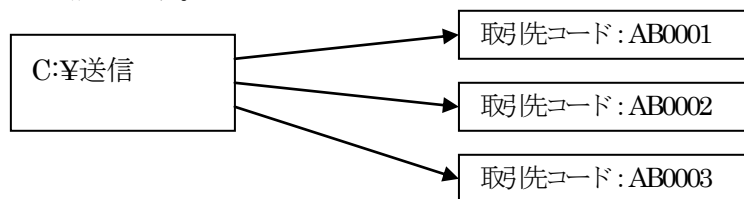
相手先の指定はファイル名でおこないます。

ファイル名の先頭_ (アンダーバー) までを取引先コードとみなします。

(例) 取引先コード AB0001 への注文書

AB0001_chuumon_00120465.dat

アドレス帳に登録された取引先コードから相手EDI用メールアドレスを検索し送信します。



(3) マニュアルで自由に相手先に送る方法 (自由送信)

マニュアルで送信ファイルおよび送信先を選択し送信します。

送信ファイルの指定はファイルダイアログ、送信先の指定はアドレス帳ダイアログでおこないます。

送信フォルダーの設定は不要です。

(注1) 上記3つの方法は組み合わせて自由に利用することができます。

<送信メールアドレス設定>

(1) 送信フォルダー毎に相手先を固定するとき

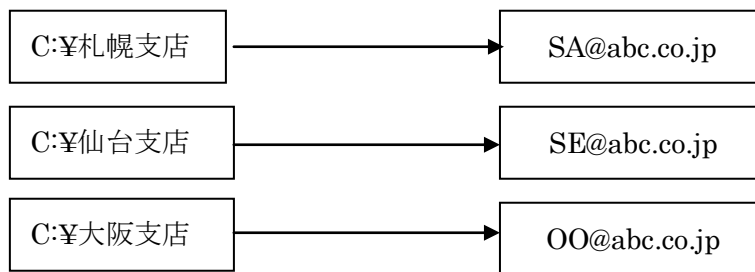
環境設定→送信環境→送信フォルダー設定

送信相手先毎にフォルダーを作成してください。(フォルダーと相手先を固定します。)

この中にあるデータを登録された相手先に送信します。

(例) 送信フォルダー

相手側EDI用メールアドレス



送信時、着信確認情報(Ack Mail)の取り込むを行うときチェックしてください。送信処理が行われるに先立ち毎回取込み処理が行われ、送信ログを更新します。
(e-エクスプレスのみ)

Internet EDI Pro “e-Express”

項目	説明	許される文字	例	必須
送言フォルダー	送言データを入れるフォルダーを設定します。フォルダーはあらかじめ作成しておいてください。このフォルダーに入っているデータが送言されます。「参照ボタン」でファイルダイアログが表示されます。		C:\Send\札幌支店	Y
分割送言 (e-エクスプレスのみ)	大容量ファイルを自動で分割して送ります。着言側で再度結合してユーザーに渡されます。デフォルトでは1MBです。	ラジオボタンで設定		N
着言の自動確認を行なう (e-エクスプレスのみ)	送言データが相手側で受け取られたとき着言側でACK電文を送言側コンピュータに返信しコンピュータ相互間で確認処理を行なうことができます。送言側の送言ログファイルを自動更新し送言側で未着データがチェックできます。	チェックボックスで設定		N
圧縮を行なう (e-エクスプレスのみ)	データは自動的に圧縮されます。相手システムが解凍しユーザーに引き渡します。既に圧縮されているファイル(jpeg 等)は圧縮されません。	チェックボックスで設定		N
暗号化を行なう (e-エクスプレスのみ)	データを暗号化され送言されます。相手システムが復号、認識を行なう。ユーザーに引き渡します。	チェックボックスで設定		N
指定された相手先に送言する	送言フォルダー毎に相手先を固定するときは、 <u>ここをチェックします。</u>	ラジオボタンで設定		Y
ファイル名により相手先を決定する	送言フォルダー毎に相手先を固定するときは、 <u>ここをオフにします。</u>	ラジオボタンで設定		N
送言先 EDI 用メールアドレス	送言先 EDI 用メールアドレス「参照ボタン」でアドレス帳から一つ選びます。	半角メールアドレスに許される文字		Y
相手担当者へメール	Y: アドレス帳の相手担当者へ送言案内メール(固定電文)を送ります。メールの電文は“メッセージの編集”で編集します。 CC: アドレス帳の相手担当者へ CC でメール送言します。(メールコネクタのみ)	コンボボックスで設定	N or Y or CC CCはメールコネクタのみの機能です。	N
メッセージの編集	相手担当者へ送る送言案内メールの電文を編集します。予めデフォルト電文が設定されています。	任意の文字		N

(2) 1つの送信フォルダーから全相手先に送信するとき

環境設定→送信環境→送信フォルダー設定

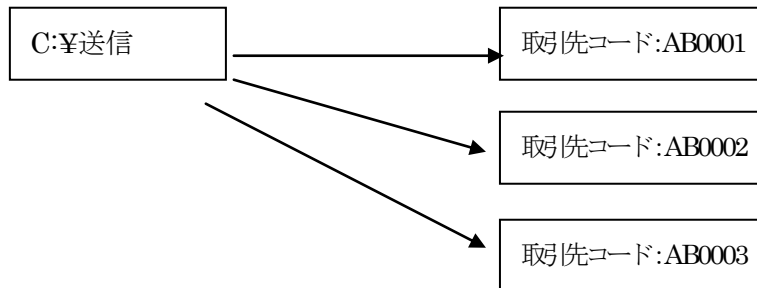
送信用フォルダーを1つ作成してください。

この中にあるデータをファイル名により相手先に送信します。

詳細はオペレーションマニュアルをご参照ください。

(例) 送信フォルダー

相手取引先コード



送信時、着信確認情報(Ack Mail)の取り込むを行うときチェックしてください。送信処理が行われるに先立ち毎回取込み処理が行われ、送信ログを更新します。
(e-エクスプレスのみ)

Internet EDI Pro “e-Express”

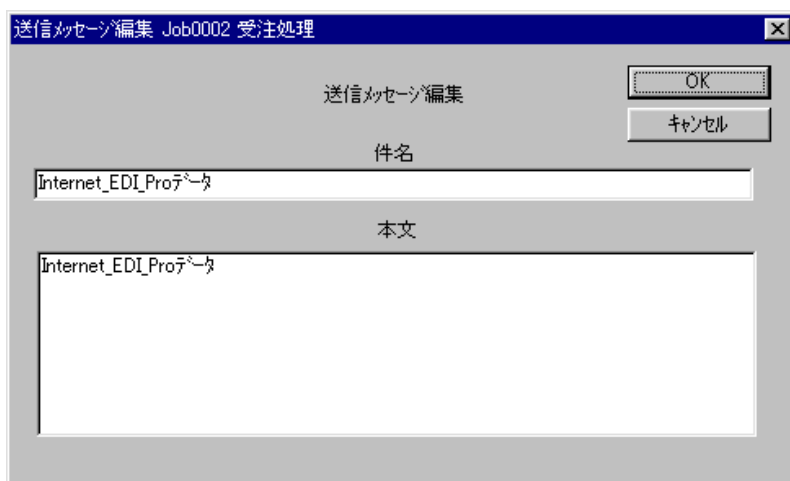
項 目	説 明	許される文字	例	必須
送信フォルダー	送信データを入れるフォルダーを設定します。 フォルダーはあらかじめ作成しておいてください。 このフォルダーに入っているデータが送信されます。 「参照ボタン」でファイルダイアログが表示されます。		C:\Send	Y
分割送信 (e-エクスプレスのみ)	大容量ファイルを自動で分割して送れます。 着信側で再度結合してユーザーに渡されます。 デフォルトでは1MBです。	ラジオボタンで 設定		N
着信の自動確認を行なう (e-エクスプレスのみ)	送信データが相手側で受け取られたとき着信側でACK 電文を送信側コンピュータに返信しコンピュータ相互 間で確認処理を行なうことができます。 送信側の送信ログファイルを自動更新し送信側で未着 データがチェックできます。	チェックボックス で設定		N
圧縮を行なう (e-エクスプレスのみ)	データは自動的に圧縮されます。 相手システムが解凍しユーザーに引き渡します。 既に圧縮されているファイル(peg 等)は圧縮されませ ん。	チェックボックス で設定		N
暗号化を行なう (e-エクスプレスのみ)	データを暗号化され送信されます。 相手システムが復号、認識を行なうユーザーに引き渡し ます。	チェックボックス で設定		N
指定された相手先に送信 する	1つの送信フォルダーから全相手先に送信するとき、こ こをオフにします。	ラジオボタンで 設定		N
ファイル名により相手先を 決定する	1つの送信フォルダーから全相手先に送信するとき、こ こをチェックします。	ラジオボタンで 設定		Y
送信先 EDI用メールアドレス	常に ALL。	半角 ALL		Y
相手担当者へメール	Y : アドレス帳の相手担当者へ送信案内メール(固定電 文)を送ります。メールの電文は“メッセージの編集” で編集します。 CC : アドレス帳の相手担当者へCC でメールを送りま す。(メールコネクタのみ)	コンボボックスで 設定	N or Y or CC CCはメールコネク タのみの機能です。	N
メッセージの編集	相手担当者へ送る送信案内メールの電文を編集します。 予めデフォルト電文が設定されています。	任意の文字		N

- (3) マニュアルで自由に相手先に送る（自由送信）とき
送信管理テーブルの設定は不要です。

<送信メッセージの編集>

環境設定→送信環境→送信メッセージの編集

送信電文（メール電文の件名および本文）をユーザーが任意に設定したい時編集ができます。



1. 6 管理者権限設定

環境設定→管理者権限設定

以下の項目に管理者権限を設定することができます。

- 環境設定
- 送信処理
- 受信データ取込み
- アドレス帳保守

管理者権限が必要な項目をチェックしユーザーID、パスワードを設定ください。

管理者権限の削除は、全項目をblankにしてください。

パスワードを忘れると e-エクスプレス、MailConnect のオペレーションの続行ができません。慎重にお取り扱いください。

管理者権限設定 mcj0022 TEST

管理者権限設定

ユーザーID

パスワード

パスワードの確認

管理者権限が必要な処理

- 環境設定
- 送信処理
- 受信データ取込み
- アドレス帳保守

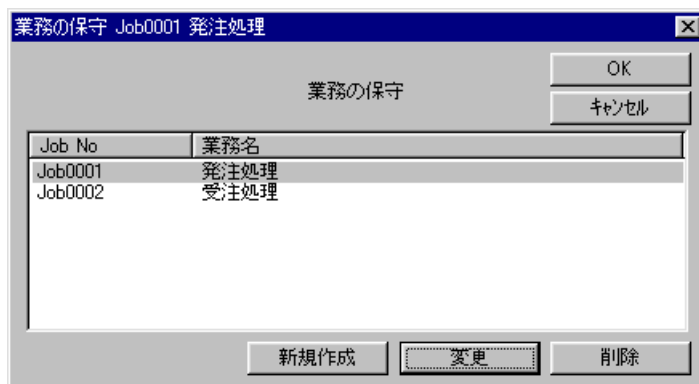
OK

キャンセル

1. 7 複数業務の稼働

e-エクスプレス、MailConnect は1台のコンピュータに複数の業務の環境設定を行なうことができます。複数業務を同時稼働することができます。

ファイル→業務→業務の追加、更新、削除



上記画面で新規、変更、削除を行なってください。

すべての環境が、独立です。

アドレス帳は、相互にエクスポート、インポートができます。

オペレーションも完全に独立で稼働します。

1. 8 暗号鍵の管理 (e-エクスプレスのみ)

<必要性>

インターネットを利用するデータ交換には、セキュリティーを如何に守るかが重要なポイントになります。

電子商取引においては、以下の条件を満たす必要があります。

- ・ 盗聴からデータを守る (暗号化)
- ・ 改ざんを防止する (電子署名)
- ・ なりすましを防ぐ (本人認証)
- ・ 否認を認めない (本人認証)

<暗号化の方式>

一般に暗号化の方式に共通鍵方式と公開鍵方式とがあります。

それぞれの長所、短所は以下のとおりです。

方式	共通鍵方式	公開鍵方式
暗号化 復号化 の方式	<ul style="list-style-type: none"> ・ 送信、受信側互いに同一鍵を使用する。 ・ 送信側は予め取決めた共通鍵で暗号化する。 ・ 受信側はその共通鍵で復号化する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各自秘密鍵と公開鍵のペアを持ち、公開鍵だけ相手に知らせる。 ・ 送信側は相手の公開鍵で暗号化する。 ・ 受信側は自分の秘密鍵で復号化する。
長所	<ul style="list-style-type: none"> ・ 暗号化、復号化に CPU 処理時間がかからない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 鍵の管理が簡単である。
欠点	<ul style="list-style-type: none"> ・ 相手が増えると鍵の管理が複雑になる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 暗号化、復号化に CPU 処理時間がかかる。

<e-エクスプレスが採用している方式>

共通鍵、公開鍵方式にはそれぞれ長所、欠点があります。

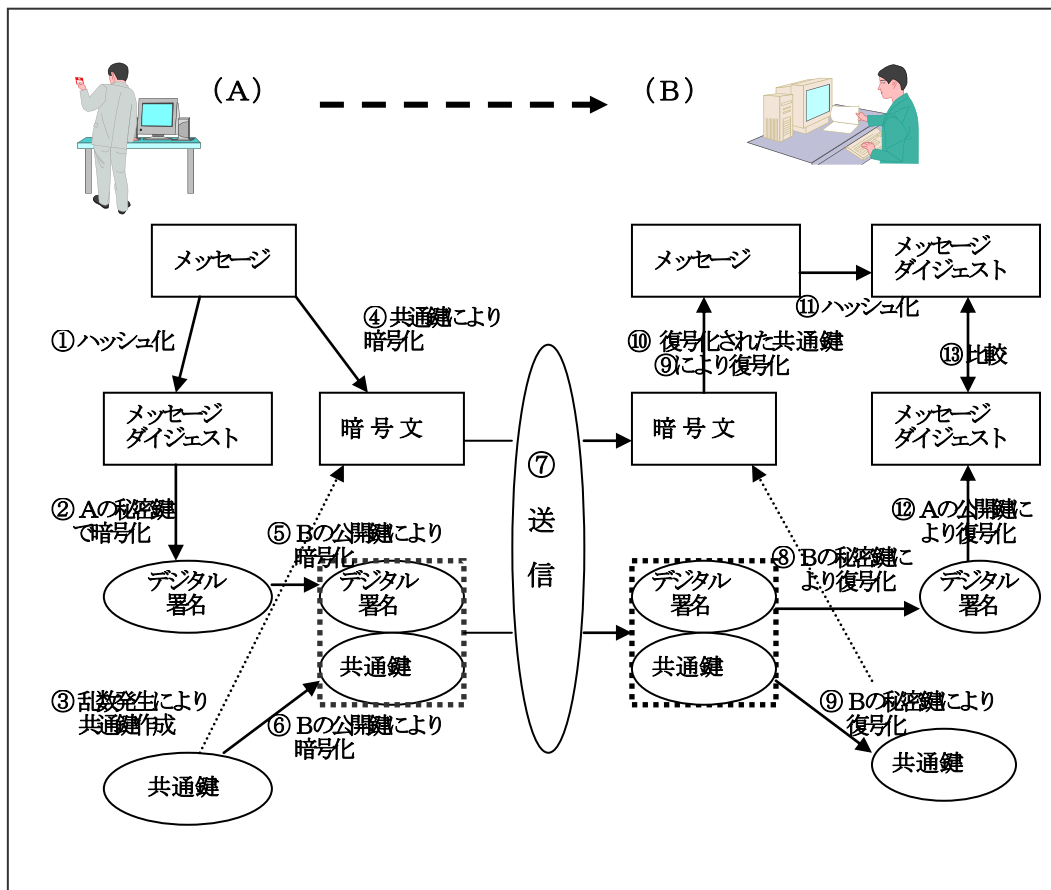
現在ほとんどのツールは両者の長所、欠点を相補う形式のハイブリッド方式を採用しております。 e-エクスプレスでも現在暗号化メールの標準となっている S/MIME 方式を採用しております。

公開鍵、秘密鍵： RSA 1024 bit

ダイジェスト： SHA-1

共通鍵： DES 56 bit

<共通鍵暗号方式と公開鍵暗号方式を併用した電子認証の仕組み>

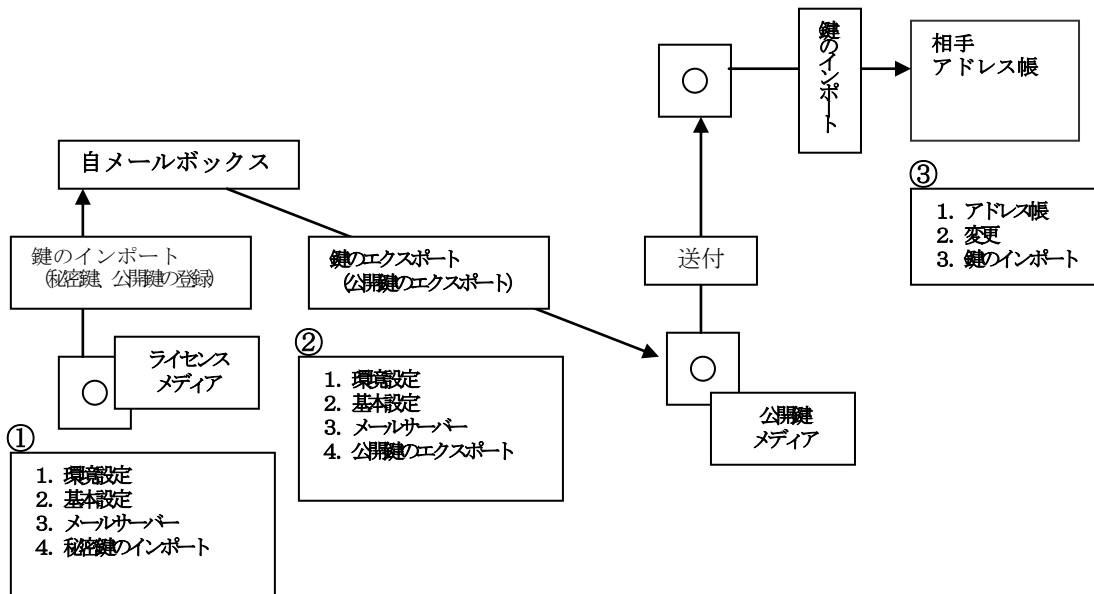


(注)

ハッシュ化: 異なる長さのデータも一定の長さに変換する不可逆変換

<鍵の導入方法>

(1) 概要図



(2) 導入手順 (公開鍵を交換する方法)

ステップ1 ライセンス (秘密鍵、公開鍵) の登録

環境設定 > 基本設定 > メールサーバー >
> 秘密鍵のインポート

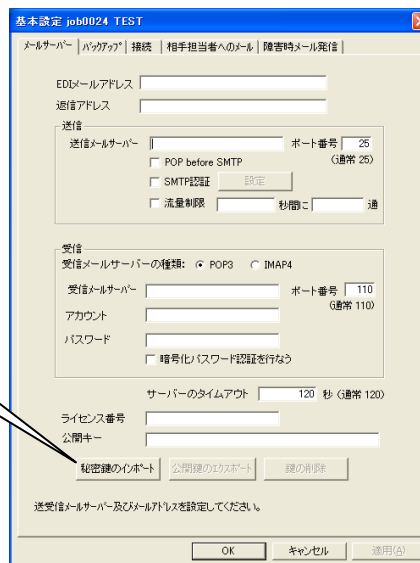
ライセンスメディアからインポートします。

<FileName> LicenseNo.key
(例) 1P002023.key

秘密鍵のインポート

ご注意

ライセンスメディアには秘密鍵がはいっています。
大切に保存してください。



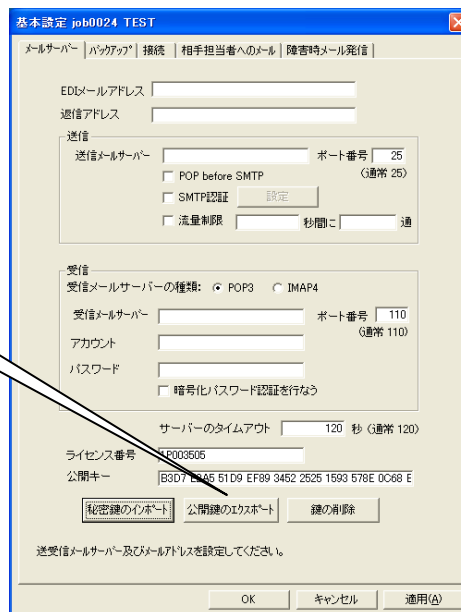
ステップ 2 公開鍵のエクスポート

環境設定 > 基本設定 > メールサーバー >
> 公開鍵のエクスポート

公開鍵をエクスポートします。このフロッピーを相手先に送付し
相手先のアドレス帳にインポートします。

<FileName> MailAddress.pki
(例) abc@xyz.co.jp.pki

公開鍵のエクスポート



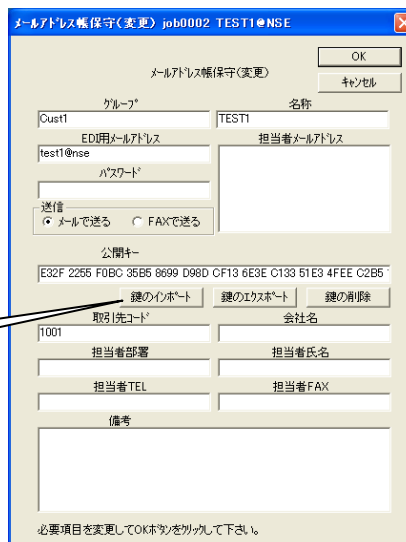
ステップ 3 相手先公開鍵のインポート

アドレス帳 > 変更 > 鍵のインポート

相手先から入手した公開鍵を自アドレス帳にインポート
します。

<FileName> MailAddress.pki
(例) abc1@xyz.co.jp.pki

鍵のインポート



- (3) 導入手順 (アドレス帳を配布する方法)
全相手先のライセンスメディアが必要です。
(鍵の集中管理を行なう場合有効です。)

ステップ1 全相手先のアドレス帳に公開鍵を登録

アドレス帳 > 変更 > 鍵のインポート

ライセンスメディアからインポートします。

すべてのアドレスに登録します。

<FileName> LicenseNo.key

(例) 1P002023.key

鍵のインポート

ステップ2 アドレス帳のエクスポート

ユーティリティ > アドレス帳エクスポート

ステップ3 全相手先に配布

アドレス帳及びライセンスメディアを全相手先に配布します。

ユーティリティ > アドレス帳インポート

(注意) この方式は全相手先の鍵を集中管理する方式です。

機密保持の上からこの方式が不適当な場合があります。

1. 9 環境のエクスポート／インポート

設定された環境をエクスポートし移植することができます。

<環境のエクスポート>

ユーティリティ>環境のエクスポート

設定された環境をすべてエクスポートします。

エクスポートされるデータは以下のとおりです。

基本設定

受信環境設定

送信環境設定

管理者権限設定

アドレス帳

<環境のインポート>

ユーティリティ>環境のインポート

エクスポートされたファイルから環境をインポートします。

すでに存在するファイルはすべて消去され上書きされます。

インポートされるデータは以下のとおりです。

基本設定

受信環境設定

送信環境設定

管理者権限設定

アドレス帳

(注) 環境をインポートすると、Send_ID がリセットされ次回送信時新規に採番されます。

1. 10 インストール時の注意事項

インストール、セットアップは Admin 権限で行ってください。

インストール時”プログラム互換性アシスタント”のダイアログが出ることがあります。
”このプログラムは正しくインストールされました”をクリックしてください。

これは、Vista以降インストール時、モジュールの互換性チェックを行い警告を発するものです。警告を無視してください。

以下の設定を行うことにより警告を出さないようにすることもできます。

ファイル名を指定して実行 (Windows+“R”)
gpedit.msc
管理用テンプレート>Windows コンポーネント>アプリケーションの互換性>
プログラム互換性アシストを終了する>有効

なほ、インストーラがエラー終了するとき以下のレジストリーをチェックしてください。

ファイル名を指定して実行 (Windows+“R”)
regedit
HKEY_LOCAL_MACHINE¥Software¥Microsoft¥
Windows NT¥CurrentVersion¥AppCompatFlags¥Layers

ここに MailConnect_Install_n.nn.exe が登録されていれば削除してください。

以 上